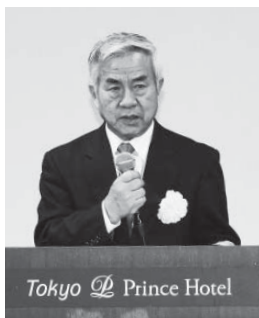




新会長・菅博敏氏



松良修二前会長

第31回竹田高校関東同窓会が、7月1日、東京プリンスホテルプロビデンスホールにて、来賓15名、恩師3名、同窓生218名のご出席をいただき、事

第31回 竹田高校 関東同窓会

総会・懇親会を 華やかに開催!!

当番幹事代表・大瀧ひとみ(昭51年卒)

事務局・当番幹事(昭51年卒)を中心に、関東在住の同窓生・大分からの応援団の協力を得て、総会・懇親会が盛大に開催されました。

まず、総会におきましては、司会井手得郎(昭41年卒)副会長の開会辞のあと、松良修二会長(昭32年卒)よりご挨拶がなされました。次いで、竹田市長・首藤勝次様、竹田高校校長・木戸孝明様、竹田高校同窓会長・後藤真志様にご来賓の皆様を代表いたしました。松良会長は、ご出席いただいたご来賓の皆様、恩師、同窓生への感謝を述べ、関東同窓会の今後の発展と継続を示唆され、今回の関東同窓会を以て会長を退任する旨を告げられまし



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第54号

発行者・会長 菅博敏
編集者・委員長 衛藤 淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 042-725-5018

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>



新任・前代会長を中心に新体制となった役員一同

た。そして、新会長、菅博敏(昭40年卒)様をご紹介し、会長としての任務に終止符をうちました。本当に長い間、ご苦勞様でございました。

次に懇親会へと進みます。まずは、前回の「臥牛」でご紹介されましたシンガーソングライターでメジャーデビューを果たした我らの同窓生「古澤剛」君のライブコンサートで開幕しま



新任の木戸孝明竹田高校長

した。年々と竹田高校の生徒が減少する中、関東同窓会の同窓生も同様に減少してきております。この状況を踏まえて、関東に在住する若き同窓生の参加や関東同窓会の活性化を目指して、また、「古澤剛」君の益々の発展を目指してライブコンサートを企画しました。ご年配の先輩方には、若者の歌を耳にするチャンスであり、ご自分の孫や子供のつもりで「古澤剛」君を応援していただきました。また、若者は、彼と同じ気持ちで歌に聞きはれていました。彼のCDを多くの同窓生に購入していただきありがとうございます。これから「古澤剛」君の応援を宜しくお願いいたします。今年、秋に竹田高校で現役



首藤勝次竹田市長



同窓会・後藤真志会長

生と共にライブコンサートを予定しており、現役生に大きな夢や希望を持って生きることを伝えるのではないのでしょうか？次に佐藤相談役によります乾杯の音頭によって、ようやく喉を潤すことができました。その後、久しぶりに会う友との会話や飲食を楽しみました。壇上のスクリーンには、「ふるさとの四季」と題して、竹田市近郊の風景写真を四季に分類しDVD作成したもの上映しました。ふるさとを懐かしく想い起こしていただけだと思います。「故郷は遠きにありて思うもの」とこの詩には、二つの意味があるとされていますが、いづれにしても「ふるさと」は素敵です。竹田高校という同じ釜の飯を食べて育った仲間たちだからこそこうして屈託なく集えるのだと思います。後半には、女性の出席者の中で、最年長であられる「濱口鈴子(昭26年卒)」さんのミニミニ歌謡ショーを開催しました。濱口さんと歌の練習に私達は幾度となくカラオケボックスに行

総会・懇親会アルバム

写真撮影：佐藤 晃一氏（昭51卒）、佐東 龍二氏（昭51卒）



古澤剛君と会の代表メンバーで「上を向いて歩こう」
（左から3人目が濱口鈴子さん）



40分にわたって熱唱してくれた古澤剛君



佐藤映之相談役の
ご発声で乾杯！



恩師・高山誠一先生（左から2人目）と
同期の昭41卒のみなさん



恩師・足立一馬先生（左から2人目）



当番幹事の昭51年卒のみなさん



◀現役大学生が3名参加され自己紹介



当番幹事・昭51卒のみなさん
に掲げられた故・田北秀
彦氏の写真（記事中参照）



司会は当番幹事・昭51卒の大瀧ひとみ
さんと佐藤史紀さん、右端は学年幹事
代表の飯田良典さん



きました。その成果もあり、皆さんの前で「港町13番地」を堂々と歌いあげました。そして、古澤君に再登場していただき、濱口さんと役員の皆様で「上を向いて歩こう」を歌いました。心の中で、亡くなられた同窓生の皆様のご冥福と、ご出席の皆様のご健康・ご多幸をご祈念させていただきます。結局は、やはり、竹田高校の校歌と伝統あるストームで来年の再会を約束して閉会といたしました。

最後に、一言、この日を目前に、4月7日に他界した私たち当番幹事の一人「田北秀彦さん」をご紹介させていただきます。彼は、この同窓会に向けて都内・大塚で会議をしたその2日後に自宅で眠りに就いた後、亡くなりました。彼は、とある企業に管理職として勤務しており、同僚や取引先の有志達に依ってとても素敵なお別れ会が営まれました。そこに、私達同級生も招かれ、彼の偉大な活躍を知ることができました。そして、会社の会長や社長のご会葬をいただき、皆に尊敬と愛しみを持たれ、立派に社会で生きていました。そんな彼は私達の誇りです。彼の死は残念でなりませんが、きっと天国で大好きな酒を片手に、この同窓会を見守っていたことでしょう。「ありがとう」の言葉を捧げ、改めてご冥福をお祈りいたします。

竹田高校関東同窓会 新会長挨拶



会長 博敏
菅 博敏

第8代会長 菅 博敏(昭和40年卒)

本年7月の総会において、松良修二会長の後任として第8代会長を拝命いたしました菅博敏であります。

ご承知の通り、関東同窓会は在京OB等からの同窓会設立機運の高まりによって竹田会から独立、昭和62年5月30日に創設されました。

創設に当たっては、1年以上の準備期間をかけて検討し、その理念は「会員相互の親睦を図り母校の発展を期す」というものであります。

組織の観点から注目すべき点は、総務・企画・名簿・組織・広報委員会からなる確固たる体制の構築と学年幹事・当番幹事制の導入であり同窓会発展の礎になったものと思います。

本同窓会は、組織力、活動内容・規模等からみても全国に誇れるものであり、歴代会長、役員、学年幹事、会員の方々の郷土・母校に対する愛情、同窓会

に対する熱い想いと行動力に心から敬意を表したいと思います。同窓会の運営に当たっては、幾つかの課題があります。

高齢化が進んでいる組織の若返りと会員増強の方策、運営資金である維持会費の安定的・継続的な確保の方策、会員相互の一層の親睦を図る方策、定員割れが続いている母校に対する協力支援の方策そして同窓会魅力化の方策等であります。

このような課題を克服し、諸先輩が築いてこられた「誇り高き伝統と歴史ある関東同窓会」をさらに充実発展させ将来に繋げていくことが必要であり、そのためには、会員皆様方の深いご理解とご協力は勿論のことです。ありますが、各委員会の将来を見据えた精力的な活動及び各学年幹事の方々の一層の活躍等組織の活性化が不可欠であると考えております。

私は浅学非才の身ではあります。が、諸先輩ご指導の下、先頭に立って挑戦していきたいと思

います。

とはいえ同窓会は、ボランティア活動であることから楽しく、意見交換をしつかり行ない総意を以って運営していきたいと思

います。

最後に会員皆様方のご支援ご協力を重ねてお願い申し上げます。



新任校長挨拶



校長 孝明
木戸 孝明 先生

大分県立竹田高等学校

校長 木戸 孝明

このたび、伝統ある竹田高等学校の校長として赴任しました木戸孝明です。7月1日(土)東京プリンスホテルで盛大に開催さ

同窓会の運営に 携わって



前会長 修二
松良 修二

前会長 松良 修二(昭和34年卒)

先輩諸氏と会員の皆様のご指導により、不束ながら10年間(幹事長4年、会長6年)に亘り竹田高校同窓会の運営に携わることができました。厚く御礼申し上げます。また、総会・懇親会のために貴重な時間を割

れた関東同窓会ではお世話になりました。ホテルに着いて2階に上がり、ここは違うかと振り返り他の会場を探していたら「校長、ここいいんですよ」と姫野PTA会長から呼び止められました。250名近くの竹田高校関東同窓会の参加者の多さに驚きました。

今年度11月11日(土)に母校を熱く思う同窓会主導の下、120周年記念式典を行えることをうれしく思います。8月の同窓会の支援による生



徒海外派遣事業でベトナム研修、10月には竹田市の支援による川端康成記念講演会でのロバート・キャンベル氏の講演会、更には里見奨学会・学林会奨学金をはじめ各種奨学金での支援等、有為な人材を育むため同窓会・地域・学校が一体となって本校の教育を充実・躍進させる取組みを続けています。

この120周年を更なる節目とし、地域に信頼され、愛され、選ばれる学校への足取りを確かなものにするためにも、皆様方の一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

て年を通じ準備に当たってくださいました当番学年の方々の多大なご協力に改めて感謝と御礼を申し上げます。

懐かしい思い出のひとつに、母校との繋がりを持つ活動の一環として始めた東京修学旅行生への支援(大学・企業訪問の引率)があります。宿舎に近い浦安駅から東京駅に向かった20人のチームが、ラッシュアワーの

ため同じ電車に乗りきれず後続の電車に乗ることになりましたが、到着した東京駅のホームが前の電車とは違う階のホームでした。慌てて携帯電話で連絡を取り合い、混雑の中を無事再会できましたが、その時の安堵は

高峰秀子主演の「二十四の瞳」



と重なりました。懐かしい思い出です。

衛藤広報委員長の発案で関東同窓会が母校に寄贈した「大志文庫」も母校の生徒の繋がりを深める貴重な活動です。生徒の情操教育の一助となるよう是非継続していただきたいと思

います。

我が関東同窓会は人材の宝庫です。宝を如何に掘り起し、如何に同窓会の活性化に繋げてゆくか、が私達の課題でした。菅博敏新会長が結成した新たな執行部はこの目的に叶ったチームです。新体制に向けた会員の皆様の一層のご支援とご協力を是非お願いしたいと思います。

クラス会・同期会

卒業30周年記念 同窓会

兄玉 篤典（昭62年卒）

▼昭62卒が竹田に大集合

平成29年8月12日（土）、第39期生の卒業30周年記念同窓会が竹田市のホテル岩城屋にて開催されました。

日本各地はもとより、海外へグローバルに活躍の場を広げた仲間達も故郷に集結、恩師を含め総勢約120名余りが参加となり、盛大に執り行われました。

久しぶりの再会は、大きく変貌を遂げた彼。全く変わらないう彼女。記憶を辿りながら30年の長きに渡る空白を互いに近況報告で埋め合い、気づけば時は過ぎ、竹高時代の思い出話を花を

咲かせました。また10年後の再会を皆で約束し、恩師の掛け声のもと万歳三唱にて1次会は散会となり2次会へ。

2次会においても参加者は約半数にのぼり、この勢いの行き着くところはやっぱりストーム！肩を組み、円陣を組み「戦い勝てり！」の歌声。竹田の夜空に

いつまでもストームが響き渡りました。ストームの勢いそのままに3次会になだれ込むものの、この時間帯になると寄る年波に勝てない者が続出、本月初めの老いを感じながら日付けの変わる頃、名残り惜しくも昭和62年卒の30周年記念同窓会一連の大イベントは閉幕となりました。

同窓会の企画及び取り纏めをしてくれた竹田在住の友に感謝とお礼を申し上げますとともに、参加の叶わなかった同級生のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

竹高健児二六会、 数寄屋橋に集う

牛島 健一（昭26年卒）

晩秋のひと時を懐かしい級友の面々に逢いたい一心一念で大型台風通過中も何の其の、竹高



銀座に元気に集まった昭26卒

関東26会の諸兄弟は老体を庇い乍らも、昨年同様、数寄屋橋の会場に揃い、一年ぶりの顔合わせを懐かしみました。悲しいかな昨期まで元気だった里見菊雄君が黄泉に旅立ち、また一人名簿から消える羽目になりました。各自熟れ往かねばならぬと知りつつも暖気にも出さず、今を元気に立ち振る舞い、戦中を思い、50年代の青春時代を懐古し60年〜80年代の企業戦士としてバブル時代、還暦、古希、傘寿、と世相を過ぎし、バブル前の団塊世代を生きた今日！今、毎年顔を合わせてもサラリーマン川柳ではない、「久しぶりに聞くに聞けない」君の名は？、「同窓会、みんなニコニコ名前出す」まさしくサラセンを地で行った様な級会でした。皆さんお店の会席料理に満足して次回の再会を約し、目標はT・O・Pまで頑張ろう。合言葉にそれぞれ有楽町を後に

帰路につきました。
老いて益々元気な26会！！
万歳！！

51年卒業生 バンザイ！！

佐藤 史紀（昭51年卒）

関東同窓会当番幹事で還暦祝いも兼ねて、大分、福岡からも駆けつけ総勢22名となりました。恩師の和製英語担当の足立一馬（野球部監督）先生、体育担当の高山誠一（剣道部監督）先生もお忙しい中、おいでくださいました。

会場で盛り上がったファイナルのストーム後、二次会場を貸切したそば屋さんへ流れ込みました。店内は通常22名で満席ですがシンガーソングライター古澤剛君、マネージャー夫妻を招待して、竹田から駆けつけた61



昭51卒のミニ修学旅行

年卒の方々そして二次会から合流した51年卒で総勢30名近くになりました。高校時代の今だから言える恋愛話などで盛り上がりしました。その後、三次会：四次会：覚えちゃらん？

その余韻を残して次の日はミニ修学旅行と題して18名ロマンスカーでいざ箱根へ。ホテルオカダで温泉にゆっくりつかった後、長湯丸長旅館・伊東君のものまねを交えた司会でまたまた大宴会が始まりました。歌・踊り・芸などで還暦とは思えない若さで気合が入りました。当然：二次会：三次会：最後は知らん内に部屋で寝ちゃった！

次の日は、観光バスを貸しきって箱根関所〜箱根駅伝ミュージアム〜芦ノ湖遊覧〜大涌谷と自然に囲まれた（竹田んほうがもつと自然で）所を楽しみました。特に大涌谷での黒いゆで卵は二日酔いの中、美味しくいただきました。

最後は、大元締め鈴木（桑島）さん推薦の有名な「はつ花そば」屋さんで乾杯をして締めくくりました。みんなよう飲むの〜ち言いながら生ビールを飲んじよった！

みなさん本当にお疲れ様でした。これで「冥土の土産」もできました。これから先、体が動く限り・ボケが来ない限り関東同窓会を盛り上げていこうと考えております。

ふるさと名所紀行

老舗探訪 その6

株式会社あわや

創業127年

「日本の在宅介護を救う」



代表取締役会長
都築 員守氏

創業者 都築惣兵衛は明治22(1889)年に徳島県阿波郡より移住して金物類の行商を始めました。初代は商売の傍ら神社の奉納、寺への水道敷設、防火水槽の設置等の地域貢献を果たしました。

その思想は2代目源太郎にも受け継がれ、特に旧竹田市の初

昭和30年頃の阿波屋



昭和57年に新築し現在に至る店舗



代消防団長として地域の防火・防災にも尽力しました。

また西宮神社の八朔祭りでの「見立細工」は鎌などの商材を使用した甲冑を展示するなど有名で現在でも語り種となっています。

3代目源太郎は販売をする商品の品質にこだわり、例えば鎌、鋸、鉋、包丁等に「阿波屋」の刻印を入れ、品質保証、責任所在を明確化しました。

昭和30年4月に有限会社阿波屋金物店へ法人化をし、取扱品

目も金物から建材類や消火器へと拡大させ、各商品の特約店になっています。

4代目員守は自動車関連企業からUターンして、昭和54年に入

社し、従来の商品に加えてギフト販売や消防設備点検も手掛けるようになり、昭和57年10月に店舗を新築しました。

平成7年7月 有限会社あわやに組織変更後、社長に就任し、平成15年4月に5代目克宜がUターンして入社し、10月に福祉事業部(介護用品レンタル・販売・住宅改修事業)を立ち上げました。

平成18年4月に株式会社あわやへ組織変更し、平成19年11月に豊後大野市三重町に、平成25年7月に大分市牧上町に営業所開設し、福祉部門を増強し、大分県の健康寿命日本一に貢献すべく、要介護軽度者の自立支援機器開発、重度者が在宅生活を可能にする「ワンルームケアの推進」(大分県経営革新承認)、また、病院、施設における職員の腰痛予防とご利用者様の拘縮緩和のための介護リフトを使用した移乗介助(ノーリフトイング)の提案を行い日々邁進しております。

平成26年10月には員守次男で平成20年4月入社社長の伸宜が中心となり、「創業125周年記念売出し」を実施いたしました。

平成28年6月に員守が代表取締役会長、克宜が代表取締役社長に就任し、障がい者の社会参加のため、就労支援事業A型、B型事業所を豊後大野市三重町にて開設し現在に至っております。

叙勲 ニュース

竹田高校関東同窓会の新会長に就任したばかりの菅会長は本年5月に叙勲されました。また、竹田会会長に就かれた古庄幸一氏(昭和40年卒)も、昨年11月に叙勲されましたので合わせてお知らせいたします。

瑞寶中綬章 菅 博敏氏

1947(昭和22)年生まれ、69(昭和44)年防衛大学第13期卒業、同年・陸上自衛隊幹部候補生学校入校(福岡)。1970年・3等陸尉へ任官、91年・帯広地方連絡部部長(帯広)、93年・陸上幕僚監部装備計画課長(東京)、95年・西部方面総監部幕僚副長(熊本)、97年・陸上幕僚監部防衛部長(東京)、99年・第4師団長(福岡)、2001年・陸上幕僚監部副長(東京)、2002年・東部方面総監(東京)、2004(平成16)年・退官、現在は日本パーカライズン株式会社取締役。



瑞寶重光章 古庄 幸一氏

1946(昭和21)年、大分県緒方町生まれ。69(昭和44)年、防衛大学第13期卒業、同年・海上自衛隊に入隊。同年、海上自衛隊幹部候補生学校入校。2001(平成13)年、海将に昇任、第28代護衛艦隊司令官。2003(平成15)年、第26代海上幕僚長。2005(平成17)年、退官。現在は(株)NTTデータ勤務。



- す。
- 〈経営理念〉 関わるすべての人に発展と幸せを
 - 〈経営方針〉
 - 一、地域に密着した店作りをします。
 - 一、職務を通じて社会に貢献します。
 - 一、誠実かつ健全な企業運営を行います。
- 代表取締役会長 都築員守は

竹田市において中心市街地のにぎわいづくりをはじめ、地域の安全、安心のため様々な社会貢献活動を行い、5代目克宜は大分市を中心に社業の拡大を担いながら、日々努力を続けています。

これからは創業200年に向けて、より一層社業伸展をさせるべく邁進を続けてまいいる所存です。

窓生登場①

私の釣り年代史（前篇）

氏田 章治（昭37年卒・旧姓・植木）

故郷竹田は楽聖「瀧廉太郎」、画聖「田能村竹田」を輩出し、その友人「頼山陽」も愛したと言われる山紫水明の自然豊かな盆地です。

その自然が私の趣味とライフワークの原点です。

「私の釣り年代史」

いきなりでなんだが両親の祖父母より私までの一族郎党、全員旧制竹中・高女・竹高出身である。父は昭和23年5月、私が5歳直前に疎開先の竹高正門前のトンネルのある家で他界した。母から聞いた話では結構釣りが好きだったらしい。

南満州鉄道勤務だった父は満州のどこの川か知る由もないが、たらいに真直ぐ入らない鯰



溪流で一休み（山形）

を釣ってきたこともあったとか。道具集めも好きだったらしく、つなぎの漆塗りの竹竿、金色の球がついた毛鉤…その外、コウモリ傘の骨接ぎの金具など道具箱は私にとってワクワクする宝箱だった。

◎十代の釣り

その血を引いているのか父と一度も釣りに行ったことなどない私が小学生のころから「どんこ釣り」「ハヤ（イダ）やヤマベ（ハエ）釣り」、夏休みは山ミミズを餌にタコ糸仕掛けの「鰻釣り」。食糧難時代で全て胃袋へ。

中学時代は校舎の傍を流れる川で昼休みに竿を出した。下校途中では、鞆を岸に放り投げ、流れの中の砂地を踏んで歩き「カマツカ」を獲った。ついでに柿や桃、スイカなど通学路の周りは、川ガキが遊んで帰るのには十分楽しめる古き良き時代であった。

◎二十代の釣り

祖母、母、姉4人の女系家族の末っ子長男として育った私は22歳、「男の世界」を体験したいと、専攻した機械工学を一時おいて、土木会社に就職。東武東上線の複線工事の現場監督。朝夕、暇ができると荒川支流

越辺川、都幾川で釣り糸を垂れた。現場の先輩が夕方変な釣りをしていた。「釣りは静かに」が原則だが、餌を付けずに竿を上下に動かし、川底をたたく。そこで初めて知ったのが「鮎のどぶ釣り」。そして、ワクワク宝箱の中にあつた金色の球のついた釣り針はこの釣りの「蚊針」であることを知った。

23歳。設立されたばかりの新しい会社に入社。丹沢の麓「秦野」へ。

間もなく、協力工場の社長から、マス釣りバーベキューの誘いがあり、丹沢の山の中の管理マス釣り場へ。しかし、石で仕切った流れのニジマス釣りはすぐに飽き、川虫を採って瀬尻のハヤ狙い。これが結構釣れた。見ていたその社長が「なかなかやるね。ヤマメ（エノハ）釣りに行くけど一緒に行かない？」とトントントン拍子に話がま



下北半島の溪

とまった。

忘れもしない昭和43年、西丹沢の源流大又沢に入溪。

これが本格的な釣りへの転機であり、その社長こそ、私にとって生涯の「釣りの師」となった人なのである。

が、この頃は「何が何でも釣ってやろう。一匹でも多く…」こんな釣りであった。

◎三十代の釣り

研究熱心な我が師はいつの間にか、日本の伝統毛バリ釣りに「テンカラ」を。更に時流より一歩先行く我が師は洋式の「フライ」なるものを自作し、フライフィッシングを試行錯誤で始

めた。私も見よう見真似でこの釣りを受け入れ、すっかりはまってしまった。

水面にフライを流す。いきなり水中で鏡のような閃き、思わず竿を上へ。「ゴツ」と手応えの後、毛鉤が宙を舞う。時には勢いよく竿を立てた瞬間、釣れた魚が後ろの木の枝に引っかかったり。竿よりはるかに長い糸に手こずる。餌釣りとは全く異なる胸の高鳴り。（次号に続く）

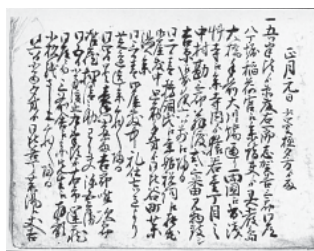


窓生登場②

東海道五十三次を歩く

服部 恭一（昭34年卒）

東海道五十三次の踏破を思い立ったのは、平成25年に会社を退職後、頭と足腰の老化を防ぎ元気で三途の川を渡るようにしたいとの思いから、近郊のウォーキングを始めました。歩くことに少し自信もできたので、以前からの夢にチャレンジすることになりました。先祖が嘉永7年（1854年）に江戸勤番時の江戸での生活と岡藩に帰藩するまでを書き留めた記録が家に残っており、先祖の旅の苦労と足跡を辿ってみようと思



「旅中日記」（嘉永7年 服部忠寿）

東海道は江戸日本橋から京都三条大橋までの五十三次126李（495km）ですが、岡藩には大津宿を経て大阪高麗橋までの五十七次後、さらに海路で鶴崎まで行き、豊後街道を経て竹

生窓③ 同登場

居酒屋2軒を経営する 若き経営者

志賀 正寛(平10年卒)

京王線・幡ヶ谷と小田急線・下北沢の2か所で居酒屋を経営しています。

幡ヶ谷は「リンダリンダ」という店名です。居酒屋としては変わった名前です。実はロックファンでブルーハーツが大好きなので彼らの代表作の曲名をそのまま店名にしました。下北沢は「三日月ロック」と言います。妻から私の顔が「三日月っぽい」と言われたので、それを店名にしました。

高校卒業後はそれなりに波乱万丈でした。福岡の専門学校に入ったのですが、父が病気になるので実家に戻りました。実家の農業を手伝うためです。しかし、ほどなく父は他界。私は飲食への想いがあったので大分市のホテルでコックとして修業しました。

その後、上京することになり、ロックが好きだったのでライブハウスがたくさんある町と



平成10年卒の37歳、若き経営者。

して有名な下北沢に住みました。そこで居酒屋でアルバイトをしたことが大きな転機となりました。

ホテルの厨房しか知らないものにとっては自分が作ったものが、その場でお客さんの反応が見えてしまう居酒屋は、良くも悪くも一発勝負です。「こんな世界があるのか!」と心を大きく動かされました。そして、私は下北沢の居酒屋の板場で料理を作ることに夢中になりました。念願になって自分の店「三日月ロック」を開店させることができたのが平成22年6月。

やっと自分の店を持てたのですが、そこでまた波乱がありました。バイク事故に合ってしまった。半年も仕事を休んでしまったのです。その時、店が1軒だけだとリスク回避がまったくできないことを痛感しました。そこで2軒経営に挑戦したわけです。それがこの「リンダリンダ」で平成28年12月にオープンしました。

「三日月ロック」は朝5時まで営業しています。始発電車が動き始める時間までです。「リンダリンダ」は25時まで。両方ともに居酒屋では普通はないサラダバーとアイスクリームバー

があるのが特徴です。下北沢は私自身もそうですが音楽や演劇に関係した人が多い場所柄です。そんな人たちが遅い時間まで活動した後で気軽に來れるお店にしたかったのです。おかげでお子さんを連れた家族やサッカー・クラブなどのグループ客に喜ばれています。もちろん、基本の焼き鳥にもこだわっています。その日の朝締めた新鮮な鶏肉を丹念に焼いてご提供しています。関東同窓会のみならずぜひお越しください。

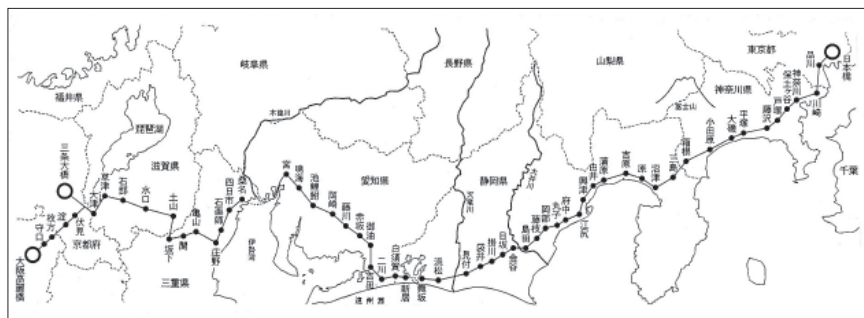


◎リンダリンダ

京王線・幡ヶ谷駅・徒歩3分
(東京都渋谷区幡ヶ谷2-9-19 青木ビル2F)
☎03-6383-3205

◎三日月ロック

小田急線・井の頭線・下北沢駅徒歩5分
(東京都世田谷区代沢5-32-5 シェルポ下北沢2F)
☎03-6805-3585



東海道五十三次

田に向かう1カ月近くの長旅でした。当時の旅人は1日に草履2足を履き潰し、35〜40kmを歩いていました。京都までは2週間あれば到着できたようです。私も京都まで家内と物見遊山を楽しみながらの「弥次喜多道中」を平成27年3月〜平成29年3月まで2年間続けましたが、正味は47日でした。可能な限り旧道を歩きましたが、交通量の多い地区や都市化の進んだところは魅

力に欠ける感否めなかったものの、まだ当時の面影を色濃く残している歴史に縁のあるところ、石畳の道、本陣、旅籠、当時から続いている名物名産等も多く残っており、それが大きな魅力で旅心を刺激しました。

街道の道中で安藤広重や葛飾北斎が画いた版画や浮世絵の景色をイメージしながら、また放映中の「女城主直虎」の舞台となっている遠州の史跡を探访することもでき、さらに興味深いものになりました。

東海道は現在の国道1号線ですが、1号線と異なるところは①箱根峠は湯元の三枚橋から左折して畑宿経由(箱根駅伝のコースよりもっと急峻な山道)だったこと、②尾張の「宮宿」から「桑名宿」まで海路だったこと、③現在の岐阜〜米原ルートではなく鈴鹿越えルートだったこと等でした。

難所はやはり箱根峠、薩埵峠、鈴鹿峠で、鈴鹿峠では雪中のウォーキングとなりました。宿場では国の「伝統的建造物保存地区」に指定されている「関宿」が見えて、宿場全体の家並みが当時のまま復元され、電柱もなく江戸時代にタイムスリップした感じでした。

ともあれ東海道126里を無事に完歩し願望を達成できたことは大きな喜びでした。

(次号に続く)

詩歌文芸

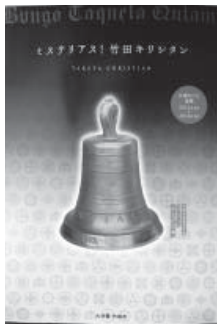
中川三代藩主久清公の母
豊臣秀頼公の実子津久丸は
岡藩三代藩主となった?

田部 修士(昭和42年卒)

今年(平成29)の5月に里見奨学会の仕事で帰省した折に、早稲田大学の重村先生と市内の商家に残る地下室やキリシタン洞窟礼拝堂など竹田市内のキリシタンの遺構を見て回りました。

その時の事ですが、最後に訪ねた竹田市商工観光課で後藤篤美参事にお目に掛かり1冊の本を頂きました。後藤さんは竹田市キリシタン研究所長でもあるそうです。

その本の中には「安威の方の謎と実像を追う」とタイトルがあり、『中川久清公の実母安威の方(松風院初)は戸伏家に生まれ、後に安威家の養女となった』と書かれていました。また、安威の方の正体を探る内に彼女が豊臣秀頼の側室であったことが、大阪城天守閣の協力によって判明したそうです。この本「ミステリアス! 竹田キリシタン」は、今年の関東同窓会



竹田市発行
「ミステリアス! 竹田キリシタン」

場でも販売していただきましたので、この記事を目にされた方もいると思います。

江戸時代の観光ガイド的な資料「撰津名所図会大成」にも、「この坂の北側の屋敷に秀頼公の嬖妾(側室)おあい殿と申せしが住み給いしゆへ」と書かれているとのことです。

一方では、中川御年譜には安威殿を久清公の実母としながら、身分は久盛公の侍女としているそうです。ミステリアス! 竹田キリシタンを担当した後藤篤美さんは、「はたして元の主君である秀頼公の側室を久盛公が自分の侍女とすることが可能だったのだろうか」との疑問を残している。ここから久清公は秀頼公の実子であった可能性も捨てきれないのではと調査が始まったようです。ただ、父親が秀頼と書かれた史料は確認されていないので、あくまでも安威の方が秀頼の側室であったことしか語ることではできないが、以下、これに関連することを簡条書きにすると、

- ・岡藩中川家臣の一族である大岩家に代々伝わる古文書から書かれた「ザビエルコード」には、主人公が炎上する大阪城から一人の女性と秀頼の赤子を救出して岡藩に連れ帰る場面が描かれている。
- ・ザビエルコードが書かれた時点で、赤子の名前が不明で

あったが、後にその元になった古文書を大阪城天守閣で読み下してもらったところ、赤子の名前は御津久丸(津久丸)と解明された。津久丸とは久清公の幼名と同じである。加えて、生年月日は、大阪冬の陣と夏の陣の間である慶長20年正月10日と一致している。これらが単なる偶然の一致にせよ、もし、久清公が豊臣の血を引く者であったならば、実に興味深い話である。ご興味ある方は、是非「花水月」1階の奥にある竹田市商工観光課で後藤篤美参事を訪ねてみてください。必ず皆さんの好奇心をくすぐるロマンの溢れる歴史秘話を沢山聞かせてくださいます。あなた次第ですが是非とも信じて足を運んでください。

計報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

物故者御芳名

甲斐 師 様 (昭和17年卒) 平成28年11月1日没	平田 真一 様 (昭和27年卒) 平成29年2月6日没
佐藤 乾 様 (昭和17年卒) 平成29年2月14日没	伊藤 節子 様 (昭和39年卒) 没年月日不明
里見 菊雄 様 (昭和26年卒) 平成29年9月2日没	松岡 靖雄 様 (昭和29年卒) 平成29年4月18日没
工藤 孝照 様 (昭和43年卒) 平成29年4月18日没	佐竹 義久 様 (昭和26年卒) 平成29年6月12日没
田北 秀彦 様 (昭和51年卒) 平成29年4月7日没	伊藤 節子 様 (昭和39年卒) 没年月日不明

現代に蘇る「冥加訓」

元竹田市立図書館長の本田耕一氏から(昭和37卒)「冥加訓」という貴重な書籍を「臥牛」編集部に寄贈いただきました。添えられていたメッセージをご紹介します。



『冥加訓』は豊後岡藩の教育草創期に家塾を開いた関一楽が弟子に分かりやすい学問の手引きとして作成したものです。『範疇』の語源ともなった書經洪範を採り上げ「誠実で人の守るべき道」を説いていま

す。近世では支え合う人づくりの不磨の大典として受け継がれ、遠く仙台藩吉岡宿での実践が映画化(「殿、利息でござる」)されて話題を呼んでいます。現代でも参考になる多くの箴言が含まれています。活性化する地域づくりや子どもたちの郷土学習の題材としてご利用いただければ幸いです。」

【編集後記】母校が創立120周年を迎えました。地元では記念式典が盛大に行われた由、心からお祝い申し上げます。関東同窓会としても菅会長が記念式典に参列し、母校に対して記念品目録を贈呈されました。

会報誌「臥牛」では同窓生に登場していただく機会を増やそうとしています。今号では3名の方にご登壇いただくことができました。お三方の卒業年次は昭和34年、37年、そして平成10年とついに平成卒業組が登場です。といっても平成もすでに29年、その元号が変わることも決まっています。若い世代を糾合しつつ、新しい時代に対応していきましょう。

連絡先

〒181-0003
東京都三鷹市北野2-3-22
(広報委員長) 衛藤 淳 宛
TEL 090-9159-7231
FAX 0422-43-7762

mail to : etoj@hotmail.com